

令和5年度病害虫発生予報第3号（7月予報）概要表

令和5年6月28日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）紋枯病		やや多
（3）縞葉枯病		やや多
（4）ヒメトビウンカ		やや多
（5）セジロウンカ		やや少
（6）ツマグロヨコバイ		やや多
（7）斑点米カメムシ類		多
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	早	やや少
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		並
（3）ヒメトビウンカ		やや多
（4）セジロウンカ		やや少
（5）ツマグロヨコバイ		並
（6）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	早	やや少
（7）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第2世代幼虫）	並	並
<u>3 大豆の播種前防除対策</u>		
（1）紫斑病		
<u>4 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		多
（3）アブラムシ類		並
（4）果樹カメムシ類		並
（5）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		並*

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす (夏秋栽培)</u>		
(1) 褐色腐敗病		並
(2) オオタバコガ		多
(3) ハダニ類		多
(4) アザミウマ類		多
<u>6 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) 黒斑病		やや多
(2) 軟腐病		やや多
(3) シロイチモジヨトウ		やや多
(4) ネギアザミウマ		多
<u>7 いちご (苗)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		やや多
<u>8 茶</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第2世代幼虫)	並	やや多
(3) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)	やや早	並
(4) チャノホソガ (第2世代幼虫)		並
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		並
(6) カンザワハダニ		やや多
(7) チャノキイロアザミウマ		並
(8) クワシロカイガラムシ (第2世代幼虫)	早	

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

(令和5年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和5年度病害虫発生予報第3号（7月予報）

令和5年6月28日
埼玉県病害虫防除所

1 水稲（5月中旬までの移植）(1/2)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	やや少	○6月中旬の発生量：散見 □5月1日～6月25日までの感染好適条件の出現日数：33日（平年：24.6日）並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂で軟弱な稲体となり、発生を助長するため、適正な追肥を実施する。 ・防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照3 ）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
紋枯病	やや多	○6月中旬の発生量：多 □前年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生を助長するため、適正な追肥を実施する。
縞葉枯病	やや多	○6月中旬の発生量：多 □ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の縞葉枯病ウイルス保毒虫率（ 参照5 ）：少（－） □7月のヒメトビウンカの発生量はやや多と予想（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	やや多	○6月中旬の発生量：多 □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：並（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	やや少	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月26日までの飛来予測日数：1日（平年3.2日）（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所が発表する「ウンカ飛来予測」（ 参照4 ）を確認し、飛来予測日が多い場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 水稻（5月中旬までの移植）(2/2)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ツマグロ ヨコバイ	やや多	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：やや多(+) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(+)	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種(「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など)では多発しやすいので早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(+)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・水田内外の雑草で増殖するため、通年で雑草管理を実施する。 ・出穂期前後2週間の除草作業は、本田への侵入を助長するため実施しない。
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 早 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：並 ■6月26日現在の有効積算温度による第2世代成虫の発蛾最盛日は、7月4日と予測(平年7月11日)(+) □フェロモントラップによる誘殺数：少(-) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(+)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ(イネアオムシ)発育予測」を参考にし、第3世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する(縞葉枯病はヒメトビウンカ対象)。 			

- 参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>
- 参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>
- 参照3：いもち病(葉いもち)感染好適条件出現状況 https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html
- 参照4：気象予測データによるウンカ飛来予測状況(トビイロウンカ、セジロウンカ) https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html
- 参照5：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果(令和5年2月3日) https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20230203.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/2）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6月中旬の発生量：－ □一部地域で苗いもちが散見（＋） □5月1日～6月25日までの感染好適条件の出現日数：33日（平年：24.6日）並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・ほ場内の余り苗は感染源となるため、早めに撤去する。 ・防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」(参照3)を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
縞葉枯病	並	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：並（±） □5月中旬までの移植地域での発生量：多（＋） □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □7月のヒメトビウンカの発生量はやや多と予想（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	やや多	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬までの移植地域での発生量：多（＋） □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	やや少	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月26日までの飛来予測日数：1日（平年3.2日）（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所が発表する「ウンカ飛来予測」(参照4)を確認し、飛来予測日が多い場合はほ場をよく見回り、早期発見に努める。
ツマグロヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：－ □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）(2/2)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 早 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：－ ■6月26日現在の有効積算温度による第2世代成虫の発蛾最盛日は、7月4日と予測（平年7月11日）（＋） □フェロモントラップによる誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にして、第3世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並	○6月中旬の発生量：－ ■6月26日現在の有効積算温度による第2世代幼虫の孵化最盛日は、7月25日と予測（平年7月25日）（±） □県予察ほ場での第1世代幼虫の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「イネツトムシ発育予測」を参考にして、第2世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照4：気象予測データによるウンカ飛来予測状況（トビイロウンカ、セジロウンカ）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

3 大豆の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
紫斑病	<ul style="list-style-type: none"> ・本病害に対する抵抗性品種（「里のほほえみ」等）を栽培する。 ・健全な種子を選ぶとともに、薬剤で種子を消毒する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・「幸水」は感受性が高まる時期であるため、発生に注意する。
ハダニ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・高温期は増殖が早いので、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	
果樹 カメムシ類	並	○6月中旬の発生量：散見 □予察灯による誘殺数：平常並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（いぬつげ、ひば類など）、ももの果実及び開花時のかんきつ類などにも飛来し寄生するため、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ)	並 [※]	○6月中旬の発生量：散見 □第1世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数：平常並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を速やかに設置する。なし園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並[※]**： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並[※]」と示しています。
- ・ **多^{***}**： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多^{***}」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	多	○6月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除する。
アザミウマ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	
【共通注意事項】 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
軟腐病	やや多	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	やや多	○6月中旬の発生量：無 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギ アザミウマ	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。 ・これから定植を行うものは、定植時の粒剤等により、初期防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りがない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶 (1/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の発生量：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」、「やぶきた」、「こまかげ」、「ふくみどり」は発生しやすい品種なので、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 並 発生量 やや多	○6月中旬の発生量：並 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日：6月8日(平年比：2日早)(±) □県予察ほ場での幼虫数：並(±) □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：平年並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 並	○6月中旬の発生量：散見 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日：6月13日、平年比：5日早(＋) □県予察ほ場での幼虫数：並(±) □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：平年並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逸した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノホソガ (第2世代幼虫)	並	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：やや多(＋) □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：平年並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノミドリヒメヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の発生量：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶 (2/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワ ハダニ	やや多	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	並	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	
クワシロ カイガラムシ (第2世代幼虫)	発生時期 早	○6月中旬の発生量：散見 ■気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋) ■6月21日現在、有効積算温度シミュレーション(アメダス地点：青梅)による第2世代幼虫孵化最盛日は、7月16日と予測(平年7月24日)(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、孵化幼虫期を中心とした短期間なので、関係機関から発表される最新の防除時期予測に留意する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいため、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム](#)（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和5年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 気象概要 1 か月予報 (令和5年6月22日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcast/103_00.html)

<予報のポイント>

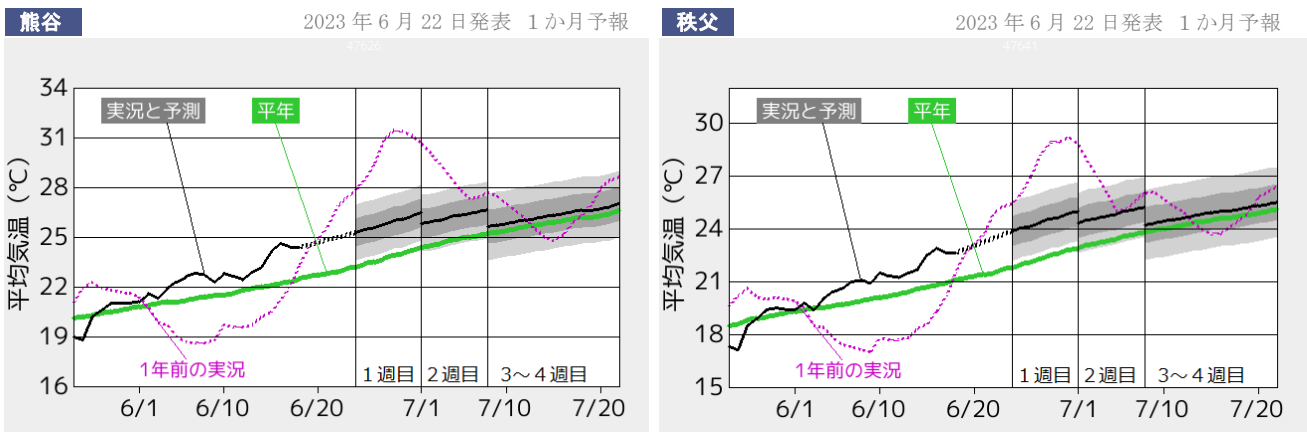
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 関東甲信地方	10	30	60
【降水量】 関東甲信地方	30	30	40
【日照時間】 関東甲信地方	40	30	30

凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

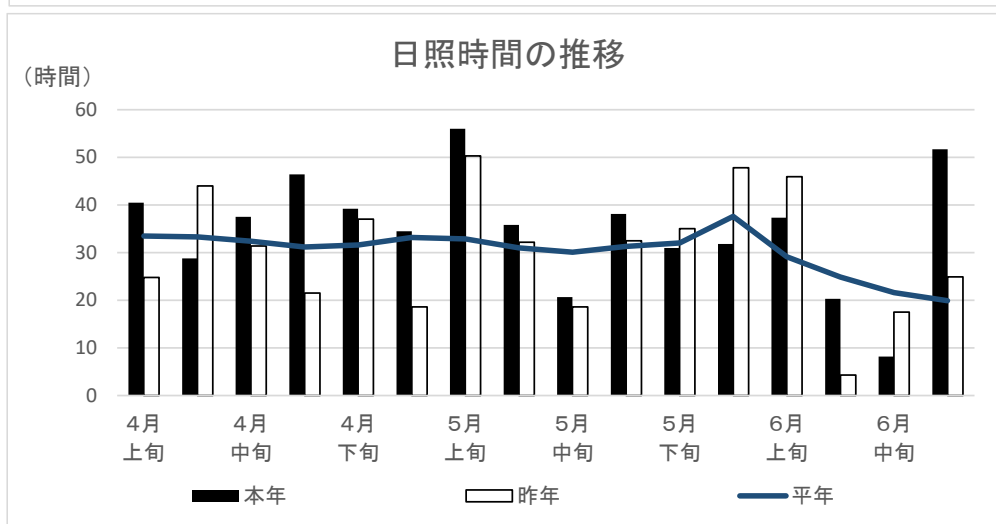
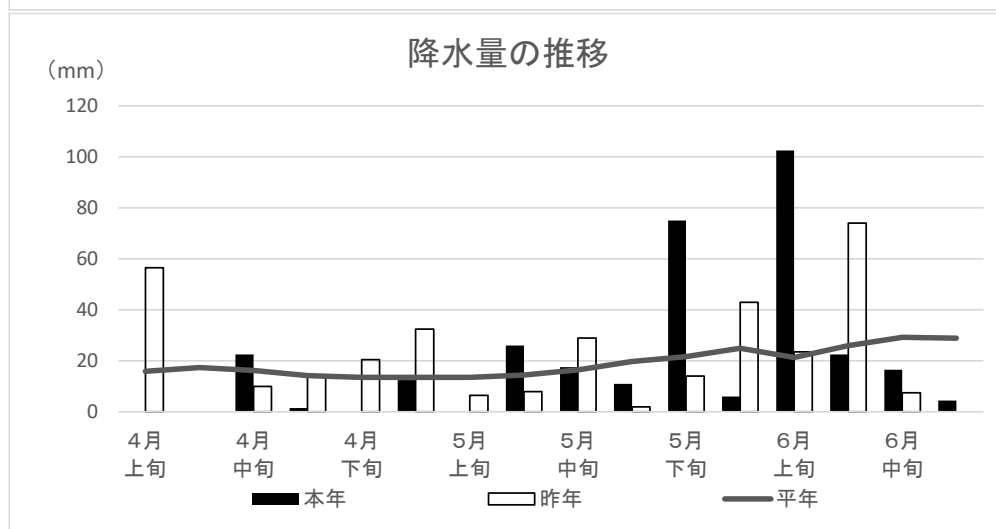
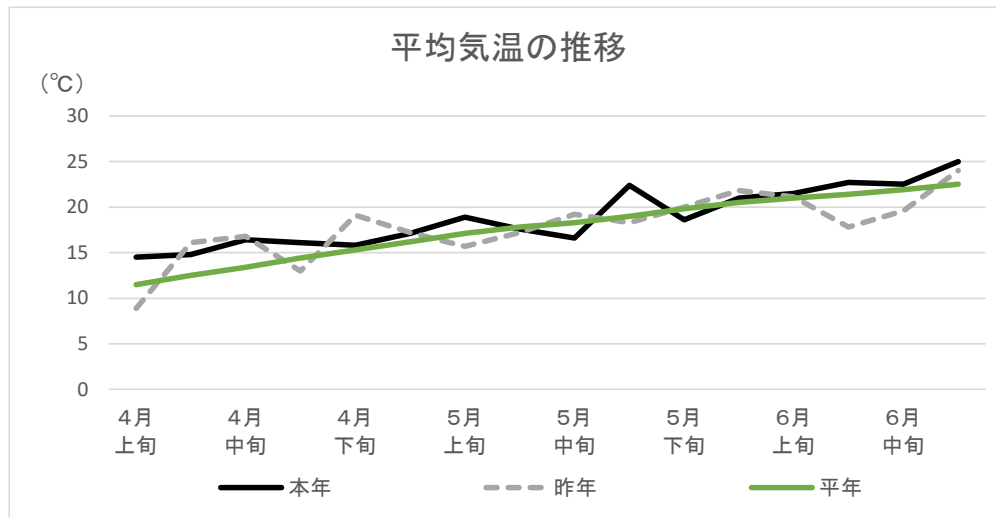
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)** —————
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)** —————
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網かけで、70%の幅を薄い網かけで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)** —————
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)** - - - - -
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>